

第201号

令和7年  
2月21日発行  
春彼岸号

# 西光



京都を歩く ～法然上人追慕念仏行脚～

坊主のつばやき

お布施はムズカシイ～

No 仏教, No Life 門前掲示板法話(11～2月)

すべては光る あなたを軽んじません

いくら施しても減らないもの めぐりあいのふしぎ

お知らせ

はなまつり ご逝去の報 編集後記

春彼岸会のご案内



浄土宗西山禅林寺派  
雲龍山 西光寺 住職 大塚靈閑

〒671-0101 姫路市大塩町229番地

☎ 079-254-0351(Tel)

☎ 079-254-4142(Fax)

✉ otsuka@saikouji-himeji.com

🏠 <https://saikouji-himeji.com/>



HP



LINE



光明寺の法然上人御火葬跡

## 京都を歩く ～法然上人追慕念仏行脚

1月25日は浄土宗を開かれた法然上人のご命日です。前日の24日の夜、京都の街をお念仏を唱えながら歩く「念仏行脚」に私も参加して参りました。道程は京都太秦の西光寺を出発し、嵐山の渡月橋を渡り、松尾大社前を通り、桂、向日市と抜けて長岡京の光明寺までの十数キロの道のりです。この行事は法然上人を偲び、その遺徳を讃える行事ではありますが、同時に決死の覚悟で師匠を守り抜いた弟子たちのドラマでもあります。



念仏行脚には念仏門の浄土宗西山三派、浄土宗鎮西派、時宗の青年僧が参加。法然上人にない黒衣に灰色の袈裟。そして網代笠、頭陀袋、手甲、脚絆の行脚スタイル。

法然上人の説く教えは、お念仏ブームともいえる広がりを見せる一方で、比叡山や奈良の旧仏教勢力からの激しい弾圧がありました。それは法然上人没後も続き、反対勢力が、京都東山の太谷の地に埋葬された法然上人のお墓を破壊し、さらに遺骸を鴨川に流してしまおうという動きがありました。その危険を察知した弟子たちが太谷の地から現在の太秦西光寺まで上人のご遺骸を移されます。しかし更に強まる圧力に、弟子たちは西光寺からさらに長岡京粟生の地(現在の西山浄土宗総本山の光明寺)へご遺骸を運び込みました。安貞2年1月24日の夜中のことです。そして上人のご遺骸は翌25日に荼毘に付されました。

念仏行脚はコロナや大雪による中止を経て、5年ぶりの開催となりました。私自身はかれこれ10年ぶりの参加でした。道中2ヶ寺でお勤めをし、しばしの休憩がある

ものの運動不足気味の身体に4時間半の道のりはなかなかハードなものです。追っ手から逃げているのかと思うくらいのハイスピード。決死の覚悟で師匠法然上人のご遺骸を守り抜いた弟子たちに思いを馳せながら(そんな余裕はない)、決死の覚悟で遅れないように一心不乱に歩きました。

しかし弟子たちが暗闇の中、棺を抱えて疾走したこの長い距離を実際歩いてみると、命がけで法然上人を守ろうとした弟子たちの思いの一端に触れることができたような気がいたしました。







# 坊主のつぶやき

## お布施はムズカシイ

### お布施に対してはお礼を言うてはいけない！？

先の念仏行脚の道中、長い行脚の列を掌を合わせて見届けてくださる方がいらっしやいます。中には浄財を頂くこともあります。心情的には頭を下げて「ありがとうございます」と言いたいのですが、実は言えません。これが募金とは違う点です。というのも布施をする側も修行だからです。布施は修行(六波羅蜜)の徳目の一つで、見返りやお礼を求められるものではありません。むしろ喜んで捨てる(=喜捨)行いであるため、お礼を言うてしまうと、その功德をぶち壊してしまうことになってしまいます。ですので受け取る側の僧侶としては「財法二施 功德無量 檀波羅蜜 具足円満 乃至法界 平等利益」と唱えて頂きます。これは普段お参りした際に頂戴するお布施に対しても同じことがいえ、本来はお礼を言うべきではないのですが、黙って頂くのも不遜な態度に見えますので、心の中で先の偈文をつぶやき、両手で丁寧に軽く頂いてから、頂戴するようにしています。

### そもそも布施とは・・・

布施は古代インドの言語サンスクリット語では dāna(ダーナ、檀那、旦那)といます。奥様が主人のことを呼ぶ際に言うあのダンナです。施す、与えるという意味で、臓器移植のドナーも同じ語源の言葉です。布施をする家を檀家、布施をする人を施主といます。皆様から頂くお布施は「財施」というのに対して僧侶の読経や法話は仏の教え(法)を説く「法施」といいます。

### なぜ「お気持ち」なのか

賽銭箱のように少額の浄財で、無記名のものであれば、いくら入れればよいのかと迷う方はいません。一方お寺への葬儀や法要などのお布施にな

るとたちまち困ってしまいます。その額も地域やお寺によりばらばらですし、額に開きが結構あるので、ますます「お気持ち」の額が分からなくなるのは当然です。

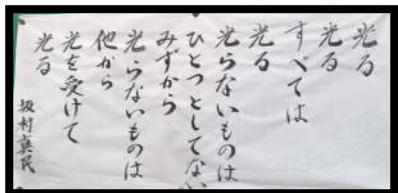
問題の背景には、僧侶がサービス業で、お経を読む対価としてお布施というサービス料を支払っているという感覚が支払う側にも頂く側にもあるからだと思います。それは今のお寺や各種法要の在り方をみるとやむを得ないのも事実ですが、本来は読経代、読経料ではなく、あくまでお布施です。読経や法話などの法施はパッケージ商品やサービスではありません。仮に各種法要の料金一覧表を作ったとしても、その額でないといけないということではないですし、金額の多い少ないによってその内容が左右されるものでもありません。お布施である以上、こちらから提示して要求するものではないのですが、それでは不親切ですので、聞かれた際には、私は地元で皆様によくお包み頂く金額をお知らせしています。頂戴したお布施に対してお寺側がどうこう言いたしたら、それはもうお布施ではなくなってしまいます。お布施は本当に難しいですね(^\_^;)

平等利益	乃至法界	具足円満	檀波羅蜜	功德無量	財法二施	【施財の偈】
						(意訳)
財施(お金やモノを施す)と法施(仏の教えを施す)の功德は量りしれないほど大きいものです。そのあなたの尊い布施という施しの行は欠けるところがなく満たされたものとなり、ひいてはその功德によりもたらされる利益が全世界に等しく行き渡りますように。						

No 仏教, No Life

# 門前掲示板 一言法話

11月

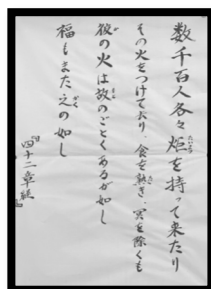


阿弥陀仏がまだ法蔵という菩薩の時にたてた願いが48あります。その3つ目の願いが「悉皆金色の願」というものです。すべてのいのちが光り輝いている世界であれというもの。

網干浜田出身の江戸時代の禅僧盤珪<sup>ばんけい</sup>禅師は、皆仏の心を生まれながらにして持っているのであるから、その仏心<sup>ぶつしん</sup>のままいけばいいだけなのだと言います。何か特別な修行をしようと思うこと自体が造作なこと、余計なことなのだ。自身は厳しい修行をなされましたが、修行をして仏心が育ったのではなく、修行をしてその種(仏心)に気づいたと言われます。

すべてのいのちが光り輝く仏心を持っているのです。

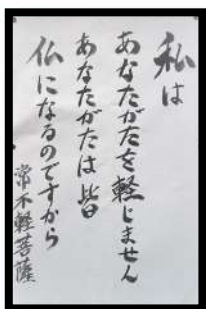
1月



数百、数千もの人々が松明<sup>たいまつ</sup>を持ってきて、火を分けてもらい、その火で食事を作ったり、明かりをとったりしても、元の火は変わることはない。福もそのようなものである。いくら施しても減ることがない福德をお釈迦さまは松明に例えて説かれています。

お金やモノの施しは誰もができるわけではありません。それに対して誰でもいつでもできる施しがあると言います。施しというより人への接し方、心がけと捉えた方がより実践的です。それはやさしい眼差しや穏やかな笑顔、トゲのない優しい言葉、そして心配りやおもてなしといった気持ちです。いくら施しても減ることはなく、そればかりか施せば施すほど周りの人々が幸せになっていきます。自らの幸せを得るには、周りの人々に幸せを感じてもらうことが一番の近道といえます。

12月

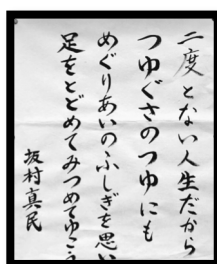


「私はあなたがたを深く敬います。決して軽んじません。なぜなら、あなたがたは皆、菩薩の道を歩まれ、将来は必ず仏になられるからです」(『法華経』)

常不軽菩薩<sup>じょうふけいぼさつ</sup>という方は会う人会う人皆に、こう言って礼拝していたと言います。いきなりこんなことを言われたら「なんだおまえ？」と思わず引いてしまいそうです。しかし軽蔑する人がいても、嘲笑う人がいても、決して腹を立てることなく、こう言って礼拝を続けられました。

先入観、好き嫌い、利害関係など様々なフィルターをかけなければ気が済まない私たち。今巷では盛んに「リスペクト」という言葉を耳にします。敬意という意味ですが、相手を大事にする、軽んじないという風に捉えた方が分かりやすいかもしれません。常不軽菩薩はすではるか昔からリスペクトの鬼だったわけです。

2月



仏教詩人の坂村真民さんの「二度とない人生だから」という詩の第5節目の句です。

多くの趣味を持ち人生を楽しむ達人、所ジョージさん曰く、「趣味を見つけようとするのは大変だから、あえて趣味を見つける必要なんてない。毎日のルーティーンを壊してみる。例えば1時間早く家を出てみる。1駅手前で降りてみる。そうするだけでいつもと違う世界を見ることができる、少しずつしてみるだけでいろんな景色をみることができる。それだけで人生観が変わるもんだよ」と。

つゆぐさの葉の上ののっているつゆに光が差し込む一瞬の輝き。めぐりあいのふしぎを感じることで人はきつとしあわせな人に違いありません。

# お知らせ

おしゃかさまの誕生日

## 花まつり

5月8日(木)



参道に花御堂をお祀りしています。甘茶をひしゃくですくって、お釈迦様にかけてお参りください。甘茶もどうぞご賞味ください。すごく甘いので飲みすぎ注意です。

バースデー



ハッピー

4月8日はお釈迦さまの誕生日です(この辺りは月遅れの5月8日)。お釈迦さま誕生の地インドのルンピニーの花園を模した花御堂<sup>はなみどう</sup>に、お生まれになった時の姿を像にした誕生仏<sup>たんじょうぶつ</sup>をお祀りしています。お釈迦さまが生まれる際、九頭の龍が現れ、天より甘露の雨を降らし祝福したことにちなんで、甘茶を誕生仏に<sup>そそ</sup>ぐり、お釈迦さまの誕生をお祝いします。

## ご逝去の報

東ノ丁	近藤義孝さん(89歳)	令和6年11月2日寂
東ノ丁	加納康行さん(87歳)	令和6年11月6日寂
加古川	石原則子さん(85歳)	令和6年11月19日寂
東ノ丁	菅原まちよさん(92歳)	令和6年12月7日寂
的形	生嶋兵太郎さん(89歳)	令和6年12月11日寂
白浜	八若公子さん(96歳)	令和6年12月13日寂
曾根	尼野幸治さん(78歳)	令和6年12月20日寂
宮本丁	湯谷信夫さん(94歳)	令和6年12月20日寂
高砂	生嶋よしさん(102歳)	令和6年12月23日寂
中ノ丁	門利保さん(97歳)	令和7年1月1日寂
東ノ丁	藤本富美子さん(98歳)	令和7年1月3日寂
西浜	加古美行さん(89歳)	令和7年1月7日寂
東ノ丁	井本由香さん(61歳)	令和7年1月20日寂
大鳥	鷲尾千代さん(91歳)	令和7年2月1日寂
宮本丁	木村正宏さん(81歳)	令和7年2月3日寂

## 編集後記

風邪、インフルが落ち着けば、次は花粉シーズンの到来。ハクションと出ないかヒヤヒヤ、ビクビク読経するのもなんだかソワソワ…。このくしゃみは古代インドの言葉サンスクリット語のクサンメからきている。あるときお釈迦さまがくしゃみをされると、周りの弟子たちが一斉に「クサンメ！」と唱えたという。このクサンメは「休息万命<sup>くそくまんめい</sup>」と音写され、長寿の意味を持つ。英語圏でもくしゃみをすると「God bless you(あなたに神のお恵みがありますように)」と言う。どちらも「お大事に」ということであるが、何気ない労りは嬉しいもの。皆様の周りのハクション大魔王にも「クサンメ」と言ってあげてください。



# 春彼岸会

三月二十三日(日)

午後一時～ おつとめ

午後二時～ お説教

お説教の前後に塔婆回向いたします  
回向料は一霊三〇〇円です

説教師

京都市左京区岩倉幡枝

専修寺 岸野亮示 師

